

ユビキタス建築都市特別研究委員会業務施設小委員会 第三回議事録 案

開催場所：建築会館会議室

出席者（順不同，敬称略）：宇治川（主査），坂東，加賀，仲，田丸，渋谷（書記），長舟

【議題】

- 1．加賀委員の紹介
- 2．前回議事録確認
- 3．未来のオフィス像

【内容】

- 1．加賀委員（大阪大学）の紹介
- 2．前回議事録の確認
- 3．業務施設小委員会活動報告について資料に基づき説明（宇治川主査）
 - ・小委員会開催状況
 - ・未来のオフィス像
 - ・情報インフラ施設 等
- 4．検討事項

以下のディスカッションを踏まえた結論：
データマイニングを進めながら，他にどうするかを検討する．

本日の検討内容について説明（宇治川主査）

未来のオフィス像
記入シートが，16事例集まったが，今後もシートの収集は継続する

この記入シートを元に以下の作業が考えられる
（1）未来のオフィスの方向性を整理する．
マップ化，データマイニングにより，いくつかの方向性を示すことができないだろうか？
例：「コラボレーション」，「拡張可能性」等のキーワードが散見される
キーワード抽出のみではなく，さらに発展させることも考えられる．
（2）行動シーンの想定とコミュニケーション技術の検討
会議，作業等の行動シーンに応じた情報通信環境を整理してはどうか．
今後の課題が見えてくるのではないだろうか？

情報インフラ施設

- （1）現在の情報インフラ施設の技術を整理してはどうか．
- （2）現在の情報インフラの模式図化はできないだろうか？
（建物外および建物内）

テキストマイニングを用いて建築の価値観について分析した事例を紹介
対象そのものではなく，対象を記述したテキストを分析している点に注意

（以上，宇治川主査より問題提起）

以下、ディスカッション

記入シート収集によってできたさまざまな団体との共同の研究会も考えられる。

データの偏りが影響するのではないか？シート記入者の意図は？

データマイニングの結果のみを鵜呑みにしてはいけない。

データマイニングに関して、意見交換。

- ・田丸委員の同僚の方に相談予定。
オフィスの情報環境に関する提案は、家具メーカー、機器メーカーが行っている（宇治川）
オフィスが変容する根本原因が見えてくると良いのだが（坂東）
- ・技術、人口、経済のビジネスモデルも原因の一つかもしれない。
- ・さまざまな人が著述している（仲）
- ・大きなフレームは見えてくるのではないか？
- ・「ユビキタスコラボレーション」は著書がある。なぜ、ユビキタスコラボレーションが必要になってのか？
建築学会らしい分析を行う必要がある（仲）
- ・事例の中身を精査し、体系的に考える必要がある。
時間があるのであれば、シートに記入した人を呼んでくるのもよいかもしれない（仲）
- ・書いた人も、一人で喋れるわけではない（宇治川）
- ・内容をわれわれの頭に入れることは難しいが、生で聞くと頭に入るかも（仲）
- ・シンポジウムを開いて喋ってもらうことも考えたが、本気で喋ってもらう仕掛けが必要（宇治川）
オフィスに情報機器が入ってきた歴史を世代を追って検討すれば、未来も見えるかもしれない（坂東）
- ・各世代で最もインパクトを与えたものを検討する（例：電話、インターネット）
「オフィス」というキーワードの捉え方も様々。外回りの営業、研究所等。
道具は同じではないのか？
- ・道具の使い方も違う。エクセルで図面を書く。
視点は？
- ・ワークスタイルなのか。
- ・空間、道具、働き方という3視点で良いのではないか。
建築学会としては、建物としてどうあるべきかということに落ち着く必要がある（坂東）
- ・コラボレーションが必要だから共有スペースが必要。
- ・外回りだから、フリーアドレス。
働き方が変わる業種もあれば変わらないものもある。
オフィスビルを表現しないといけない。オフィスビルは一つかもしれないし、複数かもしれない。セキュリティ・安全性の面から。
情報のセキュリティとなると、非常に広範な問題となる。
派遣社員（外部の人）と一緒に仕事をするのは、変化が生じる要因かもしれない。
中身はいろいろ。どうすすめるか。どこを目指すのか？
ICT技術・ユビキタス技術とオフィスとの関係に絞るのか？
活動スケジュールは。
- ・業務小委員会で、独自にスケジュールおよび目標を設定しても良い。
電波ゾーニング（無線LAN電波が漏れないようにする）技術が重要になる。
- ・インフラの話の例
- ・将来的な技術が見えない。
オフィスがこのように変容するので、技術がこうなってくるという話にすべきではないのか？

将来このようになるだろうから、今こうしなければならない(シフトしなければならない)、といえればよい。

このような問題提起が重要。

将来変わらないものと変わるものがある。

- ・人間の寸法は変わらない。

建築とは。

- ・枠のみではなく、中身(設備)も対象となってきた。

現在、オフィスを作る際に困ることは無いのか。

- ・情報のインフラを含んで。配線、電源。
- ・フリーアクセスフロア。
- ・電話線とネットワーク線
- ・線の取り出し場所、個数が難しい。
- ・余裕の配管、余裕のスペース
- ・インターネットは重要だが、マルチホーミングしていない。

一方住居は？

- ・住居の電話、洗濯機、トイレのウォシュレット、テレビの共聴アンテナ
- ・上階で携帯電話を使えるようにするとお金がかかる。
- ・携帯電話が一般化・日用品化している。特殊機器の場合は問題ないが、日用品化すると対応せざるを得ない。

テレビ会議等の情報ツールを建築側としてどう組み込むか？(仲)

- ・効率、見栄え等
- ・新しい課題(情報ツール)を持ち込むことに対する建築側からの解答が出ていない。
- ・ツール側の提案は出ているが。
- ・飛び回る人を支援したい。
- ・建築と情報ツールを融合した解答が、空間のノウハウを持っている、建築側から出てきて欲しい

- ・例：テレビ会議でも、画面サイズ、家具の配置も影響するのではないか？

- ・定量化できないから、できていないのでは無いのか？

- ・どこまでを埋め込んで、どこまでを取り替えることができるのか。

- ・定量化して、これで会議をやれば、効率がこれだけ向上するということが主張できなければならない。

位置情報を空調・光制御のために利用

- ・災害時の安否確認
- ・オフィス環境において、位置情報を活用できないか。

オフィスワークにITを使うことは、既にIT企業によって行われている。

- ・設備(空調、照明)にITを使うのが建築。
- ・従来は、温度センサーなど。これからは、人を見るようになる。(プライバシーの問題もある)

結論(再掲)

データマイニングを進めながら、他にどうするかを検討する。

5. その他

今後の予定

立命館大学の島川研究室の研究紹介。1月~2月に見学。

(以上)